

国語 第2学年 そうぞうをふくらませて読もう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、登場人物が相手をどう受け止めているかを、行動や会話の前後から想像する。同じ言葉を聞いても人物によって受け取り方が違う点に気付き、その違いが伝わる音読を試す。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名 「そうぞうをふくらませて読もう」 教材名「ニャーゴ」

2 単元の目標

語のまとまりと響きに注意し、会話や行動のまとまりで音読できる。場面の様子や会話の前後の行動から、登場人物の行動を具体的に想像できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①語のまとまりと響きに注意し、会話や行動のまとまりで音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、場面の様子や会話の前後の行動から、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

登場人物が相手をどう受け止めているかを、行動や会話の前後から想像する。同じ言葉を聞いても人物によって受け取り方が違う点に気付き、その違いが伝わる音読を試す。学習指導要領のC(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)クを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

言う人物と聞く人物の行動を別の欄に記す。会話の前後の行動を確かめてから音読を試す。読み方が違う場合はどの行動を根拠にしたかを話す。おおむね満足できる状況は、場面の様子や会話の前後の行動から、登場人物の行動を具体的に想像しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全12時間）

第1次 第1～2時：○全文を読み、人物と出来事の大体を確かめる。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第3～4時：○会話の前後に誰が何をしたかを整理する。 評価：知①（語句や内容の整理）

第2次 第5～6時：○言った人物と聞いた人物の受け止め方を行動から考える。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第7時（本時）：○受け止め方の違いが表れるように音読を試し、理由を説明する。 評価：思①（発言・学習記録）

第2次 第8～9時：○別の場面でも行動と会話を関係付け、読み方を選ぶ。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第10～11時：○音読を紹介し、友達が想像した様子と比べる。 評価：学習状況を見て支援する。

第3次 第12時：○行動を確かめて音読したことで気付いたことを振り返る。 評価：態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導（7/12）

（1）本時の目標

場面の様子や会話の前後の行動から、登場人物の行動を具体的に想像できる。

（2）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「この言葉を言った人と聞いた人は、同じことを思っているでしょうか。行動から想像して読み方を考えましょう」

【めあて】登場人物が相手をどう受け止めているかを、行動や会話の前後から想像する。

予想される児童の反応：・同じ言葉でも、言う側と聞く側の様子が異なる。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「この言葉を言った人と聞いた人は、同じことを思っているでしょうか。行動から想像して読み方を考えましょう」

自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。

予想される児童の反応：・同じ言葉でも、言う側と聞く側の様子が異なる。

・次にした行動から、どう受け取ったかを考えられる。

・相手の様子を見て読み方を変えたい。

指導上の留意点：言う人物と聞く人物の行動を別の欄に記す。会話の前後の行動を確かめてから音読を試す。読み方が違う場合はどの行動を根拠にしたかを話す。

想定する難しさ：言葉の意味を全人物が同じ意味に受け取っていると思う。声の演技だけが目的になる。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 場面の様子や会話の前後の行動から、登場人物の行動を具体的に想像している。（発言と学習記録）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・相手の様子を見て読み方を変えたい。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この言葉を言った人と聞いた人は、同じことを思っているでしょうか。行動から想像して読み方を考えましょう」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時に確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

